

母 何か求めていないかな…流れのままに。問いかけたい時には電話をかけづらく、ネットですべて調べて解決してしまいま

す。

近年のお寺とご門徒の関係は、亡き人がご縁となって始まること

が多いように感じます。生前からのお付き合いがあるのが理想ではありますが、葬式仏教となつていく関係のなかで、ご門徒との関わりが深いものになるのか、浅いものになるのかはお寺に身を置く者たち次第のような気がします。ご門徒一人一人に亡き人のお話しを聞かせていただき、残された人たちの悲しみや不安、怒りに寄り添っているのかと私自身が問われると、答えに困るところがあります。

母は話の最後にこう言いました。「お寺へ気軽に行ける様になることを願います」私はこの言葉をとても重く受け止めました。今、法縁の過疎が問題とされています。様々な要因があると考えられています。僧侶と社会との温度差が大きく関係しているように思えます。お寺の門戸を開くだけでは何も変わらない。僧侶をはじめ、お寺に身を置く者たちがご門徒、地域、社会と交わることが大切ないように思えます。さらに、弱い自

分や何も知らない自分をさらけ出すことで交われるという事もあるのかもしれない。「お寺さんは雲の上の存在」「坊さんなんて」「仏教なんて」とレットルを貼られてしまわぬよう、アンテナを張り胡坐をかかずに浄土真宗の教えを聞かせていただきたいと思つていま

す。

私は父を亡くした時、人が亡くなるのがこんなにも悲しいことなのかと初めて知りまし。また、生と死を別ものと考えていた私に、生老病死のお話しをしてくださったのは浄土真宗のお寺さんでした。そしていつの日か真宗の教えが様々な人にとって身近となり「お寺に行くことが生きがい」そんな言葉が聞こえてくることを願います。

真宗の教えを一方向的に聞かせるのではなく、あなたも私も共に聞かせていただく。それがこの先、仏縁を通して人(お寺)と人(ご門徒・地域・社会)とがつながっていくことではないでしょうか。

(文責 新保友絵)

札幌大谷高校野球部が明治神宮野球大会で優勝 女子バレーボール部は「春高バレー」全国大会出場決定

札幌大谷高校野球部は11月9日より東京の明治神宮球場で行われた第49回明治神宮野球大会で、初出場、初優勝を達成しました。前号でお伝えした通り同校野球部は10月に行われた第71回秋季北海道高等学校野球大会で初優勝し、まず、明治神宮野球大会の出場権



を得、同大会で見事、初優勝に輝きました。大会では1回戦で京都の龍谷大平安高校に6―5で競り勝ち、2回戦で東京の国士館高校、準決勝で福岡の筑陽学園を連破し、決勝で金沢の星稜高校に2―1と逆転勝ちし、初優勝を果たしました。同大会での優勝は北海道では2校目、甲子園出場経験のない高校では初めてだそうです。

また、女子バレーボール部は平成30年度第71回全日本バレーボール高等学校選手権大会(いわゆる「春高バレー」)で準優勝に輝き、来年1月に行われる全国大会出場を決めました。

